

資格をもっている人の潜在能力を活かす

「働く場」を提供する、新しい試み

結婚や出産、子育てなど女性のライフイベントのなかで一度、職場を離れた看護師や獣医師のために、「働く場」を提供しようという新しい試みがあります。プランクがあっても、まず一歩踏み出す勇気をもってみませんか。せっかく取ったライセンスを活かすには、まず「やってみよう」と思う気持ちが大切です。

『女性の働き方きちんとガイド』
(自由国民社)

潜在獣医師の発掘！ 資格をもつ人に雇用の受け皿を！

ペットブームの一方で、「動物のお医者さん」である獣医師たちの働く環境はどうなっているのでしょうか。毎年千人以上が獣医関連大学等を卒業します。約8割は入学当初、動物病院勤務を希望していますが、個人病院への就職が難しく、たとえ研修医として就職できたとしても、過酷な労働条件、低賃金で丁稚奉公のような働き方しかできないところが多いというのが現実のようです。開業を夢見ても、資金不足や開業リスクの大きさから諦めざるを得ない人も多く聞きます。

以前より小型ペットが多くなり、女性獣医師にとっても診療しやすい状況になっているにもかかわらず、労働環境が整っていないのがこの業界の現状です。業界を越えて、これからの少子高齢社会には女性の労働力は不可欠と言われています。同時に、ライフスタイルに関係なく、やりがいや求めて働き続けたい女性が増えており、それに応えるためにも、勤務医制度を確立させるだけではなく、託児所を用意したり、産休・育休などの育児支援をしたりしていきたいと思っています。

6年春までには「センター病院構想」を立ち上げて、動物医療のレベルアップにも積極的に取り組む予定です。

とくに女性は、結婚・出産などライフイベントをきっかけに働き続けることを断念する人がほとんど。そんな業界に、「企業経営の勤務医制度」を提案し、獣医師の働く場・雇用の受け皿を用意しようと試みている会社があります。「獣医師は社員」という新しい動物病院をチェーン展開する株式会社ブイエスシーの西川芳彦代表にお話をうかがいました。

一度現場を離れた獣医師たちが復帰する方法はあるのですか？
雇われて働く、という勤務医制度をうまく利用することがプランクある獣医師にも開かれた道だと思えます。2002年から直営動物病院を経営し、安定した雇用環境の整備、勤務医制度を確立することをめざしています。リスクの高い開業を避け、「勤務医を志向する人の受け皿をつくること」に重点をおき、2000

「ブイエスシーの応募に関して。院長候補、常勤勤務医、パート勤務医を募集しています。通常は、ひとつの病院に勤務医を2人、看護師を2人という配置をしシフトを組んで休みをとりやすくなり、働く時間を決められるようにしています。医師である以上、生命を扱うわけですから責任感が大切になってきます。パート勤務医を希望される方も、生半かな気持ちで動まることではありません。何よりもやる気のある方々が重要です。プロ意識をもつ、これはどんな仕事にもいえることではないでしょうか。



代表取締役 西川芳彦さん

プロフィール 1958年生まれ 経営コンサルタント 動物病院の開業等のコンサルティング業務に携わる 2000年株式会社ブイエスシー設立 2002年より直営病院「アテナ動物病院」ほか計20の動物病院を経営



著書・「動物病院で獣医師として生きる—新時代の勤務医・開業医スタイル—」株式会社ブイエスシーメディックス発行 (2005年8月、定価・本体3000円+税)

株式会社ブイエスシー
〒107-0052
東京都港区赤坂7-5-27-203
TEL.03-3505-9660
FAX.03-3505-1766
http://www.vscj.net/

資格をもっている人の潜在能力を活かす 「働く場」を提供する、新しい試み

「働く場」を提供する、新しい試み

「働く場」を提供する、新しい試み

「働く場」を提供する、新しい試み

「働く場」を提供する、新しい試み



「手に職」な資格

■女性でも働きやすい

「勤務医制度」という仕組み

2005年9月にオープンしたアテナ動物病院亀戸で働く、院長の石村さんと勤務医の大井川さん。2人は、たまたま同じ時期に、経営母体である株式会社ブイエスシー（VSC）の勤務医制度に応募していた。

「獣医師になるため6年間大学で学んだ後、何度か転職をしました。最初は研修医として大病院で3年ほど働き、その後1年間は神経専門の動物病院で。次に外科専門の動物病院に2年ほど勤めました」と、話すのは院長の石村さん。

「VSCに出会う前は、自分にあう病院がなかったので何度か転職もし、開業も考えていました。しかし、獣医師を続けていくのでさえ難しいのが現実の世界。外科専門の病院を辞めた後、半年くらいブランクがあったのですが、その頃にネットでVSCのことを知りました」

動物病院で働く獣医師の環境

【獣医師】



院長 石村志都さん(右)

勤務医 大井川響子さん(左)

は、とても過酷。時間外でも夜中でも、何かあれば駆けつけなければならぬのは当たり前。しかし給料は安く、体力的にも精神的にもかなりきつかったという。

同じく勤務医として働く大井川さんも、大学卒業後4年ほど一般の動物病院に勤務し、結婚と引越を機に退職。専業主婦として半年ほど過ごしていた。

「何か仕事が見たいなと思い、情報収集していたら、たまたまパート勤務医という制度のあるVSCのことを知り、応募してみました」

■資格を役立てたい

2人とも、せっかく取った獣医師の資格を活かして働ける場所をさがしていた。

6年間もの長い期間、専門知識を学び獣医師資格を取ったのに働く場がない、という現実。それは仕方のないものだと思っていた2人だが、VSCの方針である勤務医として雇われる身であれば、経営面は母体がやってくれるので診療に専念でき、

給料が安定しており、休日もしっかり取れるという、これからの人生を考える上でも働きやすい仕組みだと、実感。

「結婚生活と両立できるような働き方を希望していました」と

話す大井川さんは、結局パート勤務医でなく、常勤勤務医という形で雇用されることになる。「この制度ならば、今後、出産することになっても、産休・育休制度も整っていますし、安心感があります」という。

VSCの勤務医制度では、獣医師のほか看護士もみな、VSCに雇用されている社員。一つの病院には通常、獣医師2人と看護士2人でシフトを組む。

ペットブームの中、「動物のお医者さん」に求められるニーズがますます多様化している。「女性にとつて働きにくい環境」という現状とは裏腹に、動物病院を訪れる人たちは女性獣医師から安心感を得られるようだ。女性にとつて働きにくい環境に挫折しそうなながらも、小さい頃からの夢だった獣医師として、今再び働ける場を見つけた2人。「勤務医制度」という新しい働き方で、自分らしく働く……。一度現場を離れていても問題ではないようだ。

資格・仕事DATA

獣医師になるには、大学で6年間の獣医学課程を修了し、国家試験を受験して合格する必要がある。動物病院での診療業務のほか、官公庁などで公務員として働いたり、企業や研究機関につとめる。



アテナ動物病院・亀戸
〒136-0071 東京都江東区亀戸6-31-28 SIIビル1F
tel&fax 03-5609-6023
<http://www.athena-ah.net/>

経営母体
株式会社ブイエスシー
<http://www.vscj.net/>
(詳細は118ページ参照)

【Profile】

石村さん：1974年生まれ。獣医師資格取得は1999年。
大井川さん：1975年生まれ。獣医師資格取得は2001年。